

南海・阪急・阪神で巡る



京都・大阪・神戸・堺 まち歩きラリー

① 市役所21階展望ロビー

堺市役所最上階にある地上80メートル、360度の展望が楽しめる回廊式ロビー(入場料は無料)で、仁徳天皇陵古墳、六甲山、関西国際空港、生駒・金剛山、大阪城や天気の良い日には明石海峡大橋などが見渡せます。ゆっくりくつろげる喫茶ミエールもあります。

② 長尾街道

堺から方違神社、河内国府、二上山などを経て式内社・長尾神社(葛城市)に至ります。古くは大津道と呼ばれました。江戸時代には大和街道、奈良道などとも呼ばれました。『日本書紀』に「天武元年(672)に大海人皇子に味方した大伴吹負軍が高安城を占拠すると翌朝、大津道と丹比道(竹内街道)から大友皇子の軍勢が押し寄せてきた」の記述があります。

③ 方違神社

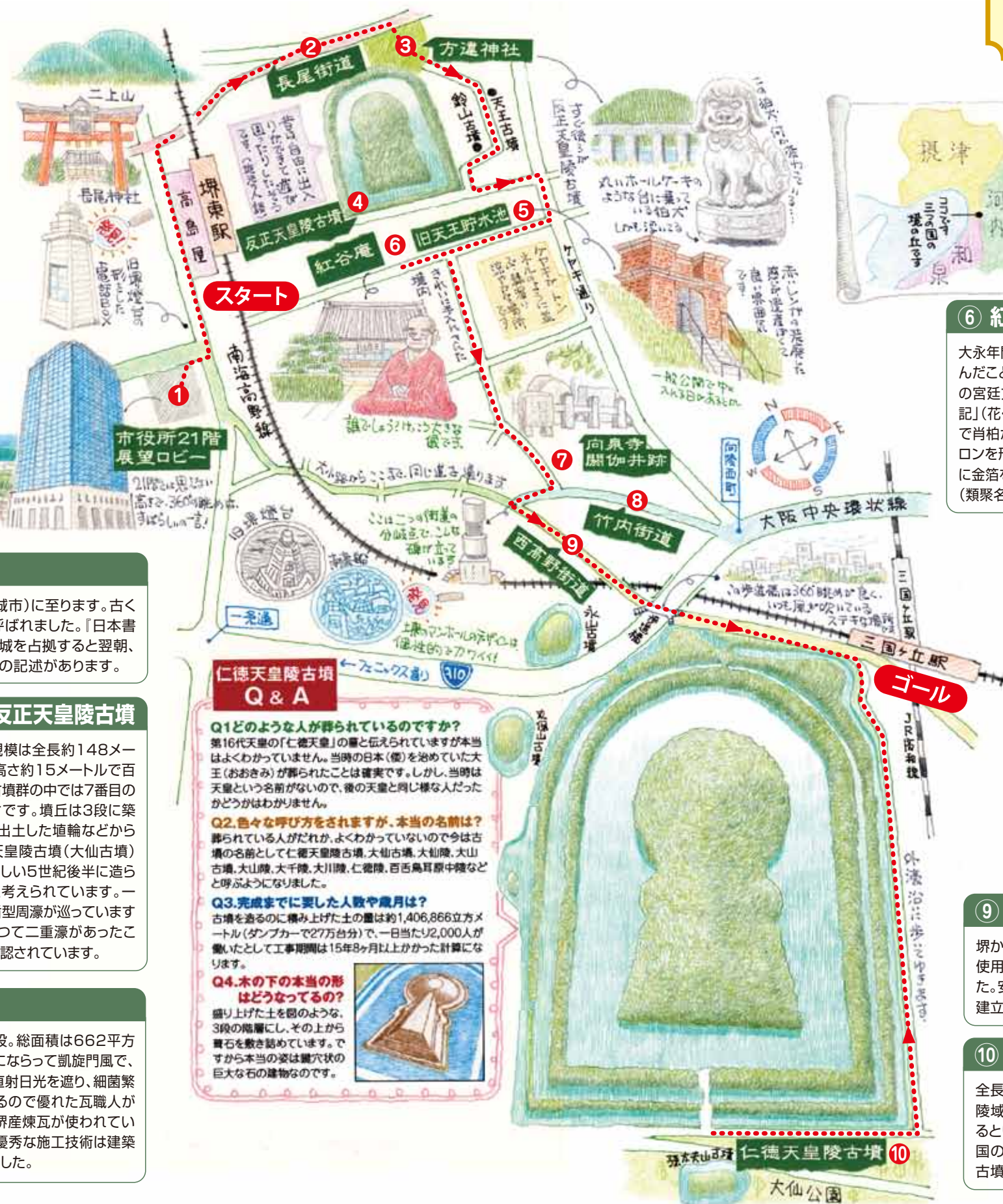
社伝では崇神8年(紀元前90)に天皇の勅願で素戔鳴命を祀ったのが起源です。201年の忍熊王の乱では、神功皇后が三筒男神の教えで八十平瓮を作って方災除けを行って勝利。応神帝に方違大依羅神社と名づけられ、仁徳帝、孝徳帝、空海、平清盛、後鳥羽帝、徳川家康などが敬ったと関連文獻にあります。明治元年(1868)の東京遷都では17日間の祈禱を行いました。摂津住吉郡、河内丹治比郡、和泉大鳥郡の境で三国山、三国の衝(ちまた)、三国丘と称され、万葉集にも「三国山こすえに住まふむささびの鳥まつがごとわれ待ち瘦せむ」と出てきます。どここの国にも属さない聖地で、堺(境)の地名の由来ともいわれます。

⑤ 旧天王貯水池

明治43年(1910)に堺初の上水道施設として野口広衛の設計で建設。総面積は662平方メートル、約6万人の給水を補いました。正面入口は水道先進地の欧州にならって凱旋門風で、内部天井も優美な半円形のヴォールト架構です。貯水槽周囲は盛土で直射日光を遮り、細菌繁殖を防いで水質維持を図りました。また堺は昔から良質な粘土が取れるので優れた瓦職人が数多くいて、明治以降は煉瓦職人として活躍。旧天王貯水池の煉瓦も堺産煉瓦が使われていると考えられます。昭和37年(1962)に使用停止。美しいデザインと優秀な施工技術は建築的価値が高く、平成13年(2001)に国の登録有形文化財に指定されました。

日本最大の古墳・仁徳天皇陵古墳を知る

～摂津・河内・和泉の丘・三国ヶ丘に登って～



摂津・河内・和泉の三国にまたがる丘・三国ヶ丘。そのすぐ目の前に展開するのが、日本最大の古墳・仁徳天皇陵古墳(大仙、大山)です。エジプト・ギザのクフ王のピラミッド、中国の秦の始皇帝陵と並ぶ、世界三大墳墓の、その圧倒的な巨大さを体感してみてください。

⑥ 紅谷庵

大永年間(1521～1528)に豪商・紅屋喜平が建て、連歌師・牡丹花肖柏(1443～1527)が住んだことがあります。宗祇(1421～1502)に師事して後土御門帝の内裏歌合に参加。当代一流の宮廷文化人でしたが応仁の乱(1467～1477)で摂津大広寺(池田市綾羽町)に移り、「三愛記」(花・香・酒の風流記)を記述。師・宗祇が没したさいは連歌界が大混乱したので後柏原天皇の勅で肖柏が式目(連歌の作法)を作り、事態を治めました。永正15年(1518)頃に紅谷庵に。一大サロンを形成して、ここから堺伝授(和歌・連歌)、堺流(書)が生まれました。門人に困まれながら「角に金箔を施した牛に乗って往来」(扶桑隠逸伝)「牛の角に蹴鞠を結びつけて人々と蹴鞠を楽しむ」(類聚名物考)といった風雅な生活を送り、84歳で没。墓は南宗寺(南旅籠町)にあります。

⑦ 向泉寺・関伽井跡

聖武天皇勅願で天平(729～749)頃に行基(668～749)が建立した三國山遍照光院向泉寺の跡碑です。万病に効く関伽井(関伽とは仏前の供水のこと)が湧き、本堂が井戸に向っていたから、または寺院が和泉国に向っていたから向泉寺と称しました。王子社、方違社、東原天王社の祭礼の神水にも用いられましたが、永正年間(1504～1521)に兵火に遭い、次第に廃れて、享保頃(1716～1736)に廃寺となりました。

⑧ 竹内街道

堺から二上山を越えて奈良・葛城に至ります。『日本書紀』の推古天皇21年(613)の条に「難波より京(飛鳥)に至る大道を置く」と記される日本最古の官道で、丹比道(丹比野を横断するので)や当麻道(当麻寺に至るので)ともいいました。飛鳥時代には遣隋・遣唐使節や留学生が往来するシルクロードで、街道を進むと太子町に入り、聖徳太子廟の観福寺や用明、推古、孝徳陵、小野妹子墓といった史跡が集積しています。司馬遼太郎は『街道をゆく』の中で「もし文化庁にその気があって道路をも文化財指定の対象にするなら、長尾・竹内間のほんの数丁の間は日本で唯一の国宝に指定さるべき道であろう」と記しています。

⑨ 西高野街道

堺から大阪狭山市、河内長野市、紀見峠を経て高野山に至ります。平安後期から参詣道として使用されたと考えられています。江戸時代には堺港と高野山との流通経路として賑わいました。安政4年(1857)に茱萸木村の住人・小左衛門と五兵衛が発起して13本の一里塚道標を建立。堺・榎元町の十三里道標石から高野山神谷の一里道標石まで、全てが現存しています。

⑩ 仁徳天皇陵古墳

全長約486メートル、高さ約35メートル、三重濠の外周は約2.8キロメートルで、古墳の陵域は47万平方メートル(甲子園球場が12個造れる広さ)です。全国に20万基以上あるといわれる古墳の中で日本最大の規模を誇り、エジプト・ギザのクフ王のピラミッドや、中国の秦の始皇帝陵と並び、世界三大墳墓の1つに数えられます。2008年に、仁徳天皇陵古墳を含む百舌鳥古墳群・古市古墳群が、世界遺産の国内暫定リストに追加されました。